Health, and Safety Report

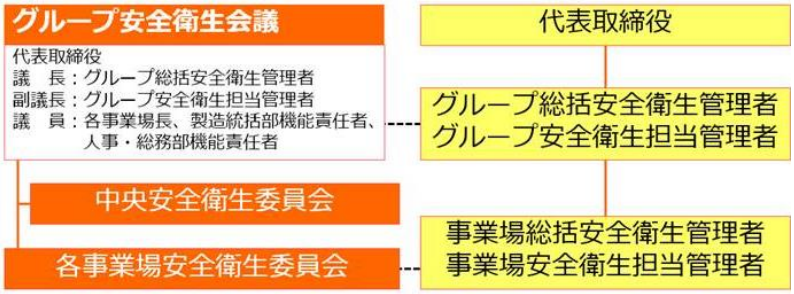
安全衛生報告

安全衛生管理体制

安全衛生管理体制

クアーズテック株式会社グループでは、「グループ安全衛生会議」を安全衛生管理に関する最高の審議・決定機関とした一元的な管理運営体制を構築しています。また、労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針（厚生労働省）に則り、リスクの低減活動を進めています。

◆労働安全衛生管理体制図（体系図）



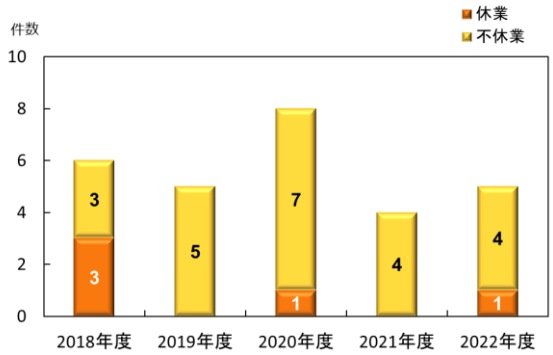
業務災害発生状況

業務災害発生状況

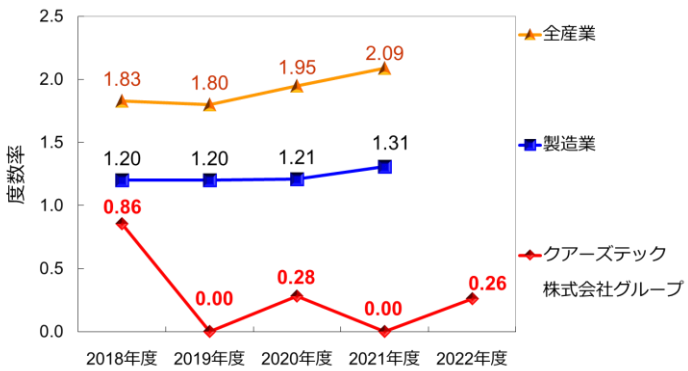
2022 年度のクアーズテック株式会社グループにおける業務災害は 5 件、休業災害は 1 件で、過去 5 年の業務災害件数の平均的な数値となりました。ヒューマンエラーが要因の一つに挙げられています。2022 年度の後半に、管理監督者向けのヒューマンパフォーマンス教育を実施しましたが、2023 年度は、一般従業員向けにヒューマンパフォーマンス教育を行う予定です。引き続き、その他の作業者の安全教育、機械の保護装置・安全装置の整備やリスクレベルの改善、Foresight 4 Safety※、指差し呼称の定着、リスク低減などの取組みを進めてまいります。
2022 年度は、刈谷事業所とクアーズテック徳山の 2 事業場が業務災害 0 件を達成しており、クアーズテック徳山は 11 年連続で無災害を達成しています。

※Foresight 4 Safety：作業の前に考える 4 つの項目。
（何をしようとしていますか、どんな危険が潜んでいますか、あなたならどうしますか、誰に伝えますか）

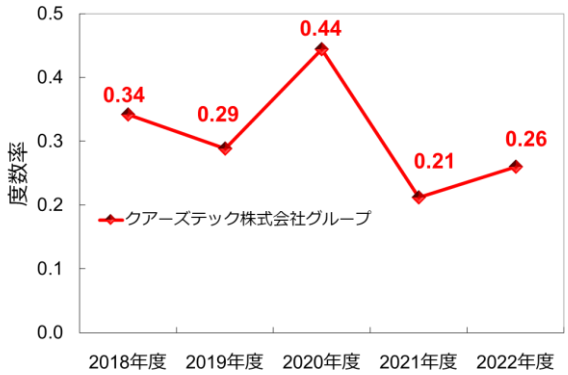
◆クアーズテック株式会社グループの業務災害発生状況



◆度数率※1



◆20 万時間当たりの度数率※2



（備考）クアーズテック株式会社グループ以外の数値は、厚生労働省労働災害統計による。

※1　度数率：延べ労働時間数 100 万時間当たりの災害（休業 1 日以上および身体の一部または機能を失うもの）発生数。ただし、休業 1 日以上および身体の一部又は機能を失う労働災害による死傷者数に限定して算出。クアーズテック株式会社グループは、業務災害の発生数で算出。

※2　20 万時間当たりの度数率：延べ労働時間数 20 万時間当たりの全業務災害発生数。

安全衛生活動の目標と実績

労働安全衛生目標

クアーズテック株式会社グループは、人の生命を最優先とし、職場の安全確保と従業員および関係者の健康を大切にするために、安全衛生活動基本方針を定め、安全で快適な職場環境を維持し、業務災害および職業性疾病の防止に努め、また、自らの健康づくりを推進しています。

◆2022 年度　重点事項の実績

2022 年度　重点事項	目標	実績	評価※4
1. 業務災害ゼロに向けた取組み	（1）ヒューマンパフォーマンスの向上	・管理監督者へのビデオ教育	○
	（2）リスク低減の推進 ・リスクアセスメント（RA）の統一 ・リスクレベル※1Ⅱ,Ⅲの 5%以上改善 ・エルゴノミクス※2に基づく改善 ・気がかり・ヒヤリハット情報の共有 ・ヒヤリハット率※3 221 以上	・計画的に統一 RA へ移行中 レベルⅡ,Ⅲ：12.6%改善 エルゴノミクス：113%改善 ヒヤリハット率：288	◎
	(3) クアーズテックグローバルスタンダードと安全衛生ガイドラインをベースにした安全レベルの向上	・5 月より発生したインシデントの対策の横展開に変更。 ・マシンガードの初期不具合の改善をすべて完了。	◎
2. 心身の健康維持増進	（1）COVID-19 対応	・感染予防対策、感染者発生後の対応と拡大防止措置の実施	○
	（2）健康診断結果の改善の啓蒙推進	・産業医、労働衛生コンサルタントによる教育	○
	（3）メンタルヘルスの環境の改善・向上	・計画どおり実施	○

※1 リスクレベルⅡ：計画的に低減対策を要するリスク、Ⅲ：優先的に低減対策を要するリスク
※2 エルゴノミクス：人間工学。身体への負担を小さくし、疾病が起こりにくくなるように機械設計や作業方法を最適化すること。
※3 ヒヤリハット率=ヒヤリハット件数／業務災害件数
※4 ◎：目標を上回る成果、○：目標を達成、△：目標未達

◆2023 年度　重点事項

1. 業務災害ゼロに向けた取組み （1）ヒューマンパフォーマンスの向上 （2）リスク低減の推進	2. 心身の健康維持増進 （1）COVID-19 対応 （2）健康診断結果の改善の啓蒙推進 （3）メンタルヘルスの環境の改善・向上

安全衛生活動

安全衛生意識の高揚

例年、各事業場では、Foresight 4 Safety や全国安全週間、全国労働衛生週間に合わせ、関係会社や協力会社を含めた全員集会や安全大会により安全衛生講話や表彰などを行い、安全衛生意識の高揚を図っています。2022 年度も引き続き、COVID-19 対応により、全国安全週間でのメッセージ伝達や安全衛生表彰、啓蒙活動等は、感染防止対策をとり、リモートシステムを使用して開催しました。

Foresight 4 Safety
（小国事業所）

Foresight 4 Safety
（長崎事業所）

全国安全週間行事での表彰式
（秦野事業所）

安全衛生教育・訓練

安全衛生に関わる各種教育を年間安全衛生教育・訓練計画に基づき実施し、従業員の安全確保と安全衛生意識の高揚に取組んでいます。

Foresight 4 Safety 教育
（秦野事業所）

新入社員安全衛生教育
（刈谷事業所）

新入社員安全衛生教育
（長崎事業所）

（危険体感教育）

クアーズテック株式会社グループでは、業務災害を無くすために従業員一人ひとりのリスクに対する感度を上げることが重要であると考え、作業中に潜むリスクについて身を持って体感できる危険体感教育を行っています。

危険源を探す教育
（小国事業所）

巻き込まれの体感
（秦野事業所）

切創危険の体感
（刈谷事業所）

（LOTOTO 教育：ロックアウト・タグアウト・トライアウト教育）

ロックアウト・タグアウト・トライアウト※は、機械や装置の点検、清掃、メンテナンスなどを行う従業員を機械の誤動作や誤操作による危険から守る手段として重要な手順です。全事業場でロックアウト・タグアウト・トライアウトの教育を重点的に実施しています。

※ロックアウト：機械や装置に供給されるエネルギー（動力）源を遮断し、起動装置に鍵を掛け、他人による機械の操作をさせないようにすること。
タグアウト：機械のエネルギー源の遮断中に、遮断した機械や装置の操作を禁止することを札（タグ）によって明示すること。
トライアウト：機械設備が動かないことを、残留エネルギーの確認と起動スイッチを入れて確認する(試す）こと。

LOTOTO 教育
（小国事業所）

LOTOTO 教育
（クアーズテック徳山）

リスク低減活動

（マシンガードの整備）

クアーズテック株式会社グループでは、グループ安全衛生ガイドラインに基づいて、マシンガード※の整備に取り組んでいます。新規導入設備に関しては、導入前の環境事前評価および設備デザインレビューにて安全性を評価し、また、既存の設備については、リスクアセスメントの評価結果に基づいて計画的にマシンガードを設置してきました。2022年度に全事業所とクアーズテック徳山で、マシンガードの初期不具合の改善が完了しました。引き続き、定期的なリスクアセスメントや Foresight 4 Safety、ヒヤリハット情報などのリスク低減活動に基づいて、マシンガードの改善を図っていく予定です。

※マシンガード：機械の危険源に作業者が触れないようにするための扉、柵、機械の自動停止機能等。

（エルゴノミクス改善）

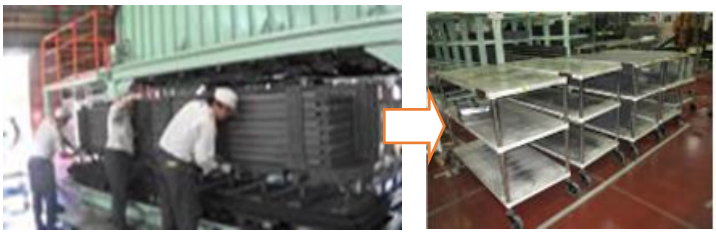
クアーズテック株式会社グループでは、従業員の作業負荷軽減を目的に、エルゴノミクスの評価結果に基づいた計画的な改善に取り組んでいます。

改善前　改善後

重量物運搬作業方法の改善：ローラー付き昇降リフターの導入
（小国事業所）

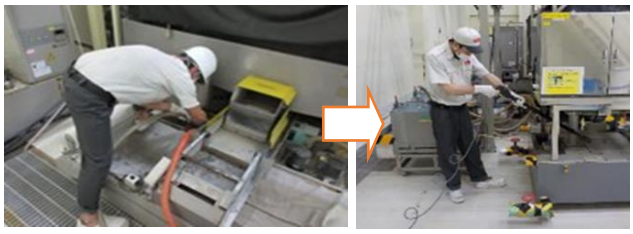
改善前　改善後

重量物の廃棄作業の改善：チェーンブロックの設置
（秦野事業所）



改善前　改善後

マッフル治具の収納方法の改善：専用台車を導入
（刈谷事業所）



改善前　改善後

スラリータンクの固形物除去作業の改善：高圧洗浄機導入
（長崎事業所）

（妊婦の職場リスクアセスメント）

クアーズテック株式会社グループでは、妊婦にとって負担の大きい業務がないか評価するため、作業環境、作業姿勢、作業の制限に分類し、各項目についてリスクアセスメントを行い、その評価結果に基づき、安全と衛生が確保できるように努めています。

従業員の健康

（身体の管理）

クアーズテック株式会社グループでは、従業員が健康に働ける職場づくりを目指し、各種健康診断を実施し、その診断結果を基にした健康管理、健康全般に関する相談の機会を設けています。また、過重労働による健康障害防止対策として、従業員への産業医などによる面談や、従業員からの希望による面談にも随時対応し、一人ひとりの健康問題に対処しています。

（メンタルヘルス）

メンタルヘルスについては、予防の視点から、心の初期不調者への気づき、見落としの撲滅に向けて、管理者を対象とした研修を行うとともに、従業員自らが心の変化に気づくためのメンタルヘルス教育などを実施しています。また、カウンセラーの設置や、メンタルヘルス不調により休業した従業員が円滑に職場復帰できるように「職場復帰支援プログラム」を策定するなど、従業員に対するケアを行っています。

（COVID-19対応）

クアーズテック株式会社グループでは、COVID-19のパンデミックに対応し、新しい生活様式への変更に関するルールを制定して、周知・実行してきました。例えば、検温スクリーニング、ソーシャルディスタンスの確保、居室や会議室のパーテ－ションの設置、消毒・換気の徹底、そして、感染者が発生した場合の消毒訓練などです。また、時差出勤や在宅勤務制度も導入し、継続しています。